

# 七浦地区はなぜ地元に小学校をのこせたか 〜稲鯨集落の住民の意思と今後の学校との関わり〜

## 編 集 部

小中学校の統廃合をすすめている佐渡市において、(2001年度未現任)唯一統合しなかった七浦小学校地区の保護者・住民の方々にその経過や地域と学校とのつながりについて11月中旬、お聞きした。聞き手・境野健児(福島大学) 内山雄平(にいがた県民教育研究所)

### 1、統合の経過とPTA・住民の意思

2009年(平成21年)4月、七浦小学校PTAは市教委から金泉小学校、相川小学校との統合に関する説明会を打診され、予算確定の関係から同年の12月までに結論を出して欲しいと要請された。

これまで小・中学校統合に関する住民と市教委の話し合いは、2000(平成12)年3月に統合した二見

小と七浦小との時は、10年間を要し、金泉中、二見中、七浦中、3校統合の場合でも、話がでてから6年を経て実施(平成15年)されたのに比べるといささか乱暴なすすめ方であった。

市教委の統合についての全体への説明会は、2回ほど行われ、統合に関わる2団体(七浦小・稲鯨保育園)、4集落(橘72世帯、稲鯨265世帯、米郷50世帯、二見114世帯)からなる代表者会議や、団体・集落毎に説明会や話し合いが精力的に行われた。

七浦小PTAと保育園の親の会である「はぐくみ会」は、保護者に「統合に関するアンケート」を実施し、その結果を校区全戸に配布した(資料1)。また、市教委に対して61項目にわたる詳細な質問と要望を提出

し、その回答を得ている。市教委も各集落の質問に対する「統合に関するQ&A」も全戸配布し、さらに、保護者の「統合による心配ごと」に関する回答も配布している。

このように、七浦小学校の統廃合について住民側・市教委側双方での取り組みが行われた。特に地域と学校の視点から、稲鯨集落における統合問題に関する論議を見てみると、以下のようになる。

当初、市教委のすすめる統合には反対出来ないものだという認識で、統合する際の条件をあげ、これを叶えてくれればと話し合いに臨んだ。ところが、前浜小学校と前浜中との小中連携校をすすめる論議の中で、統合は、住民の意思を尊重しなければならず、反対すれば無理にすすめることが出来ないという文部省（現在・文部科学省）の1973年の通達があり、連携校の動きはストップしていることが分かった（その後、保護者は連携校に合意する）。

統合は住民の主體的な判断に関わる問題であるとの共通認識が拡がり、以下に見るような意見が出されて、当局がいくら条件を呑んでも反対は反対だという雰囲気に変わってきた。

① 当初統合の理由は、佐渡市合併による特例債を生かしたいとの説明であったが、話し合いがすすむにつれ、統合する相川小学校の耐震化を図るためだということが判明し、そのことと七浦小の統合を絡ませるのはおかしいとの意見がでた（のちに、相川小学校は調査の結果このままでは危険だと分かり、特例債を使い単独で耐震工事を行った）。

② 「通学用にはスクールバスを用意する」という回答に疑問を抱いた。すでに統合した学校や進行している地区の話を聞くとスクールバスでなく、定期バスだという。当局の説明していることとやっていることは違うのではないか。

③ 地域に学校を残したい。住民参加の運動会や文化祭が無くなり、寂しくなる。学校は地域文化の中心だ。学校には有識者がいて、疑問に思ったことはいつでも聞ける所だ。

④ 当局のいう「適正規模論」は学校規模が大きすぎ、それが地域に合った適正規模なのか。小規模学校での教育の長所や短所を含む教育の議論が乏しく、専ら経済効率をねらった論ではないか。地域で子どもを育てる視点がない。

こうした議論は統合に反対・賛成の立場にこだわらないで率直に語りあった結果である。さらに、稲鯨集落ではそれぞれの代表者（33人）による統合賛否の投票を行い、賛成15票、反対16票の1票差で統合反対の結論となった。七浦小PTA（総数80）は賛成22で反対46、稲鯨保育園（総数31）は賛成5反対8という結果だった。他集落の橋は賛成9反対12、米郷は役員会として反対するが他集落の決定に同調する、二見は保護者の意向を尊重し、役員会としては反対する、という結果で、総じて反対の意向を示した。

## 2、存続する七浦小学校と

### 地域との関わりをどう考える

これまでの統合に関する経過についての報告を受け、七浦小学校の存続を今後子どもが育つ環境にどうつなげるかが大切になってくるとの境野先生の提起を受け、地域と学校とのあり方について出席者から討論してもらった、概要はつきのとおり。

Aさん 先日、一人の先生が5・6年生を指導する複式学級の授業参観に臨んだ。一方を教えている間、他方の学年は自習をしており、その指導は安易なもの

でないことが分かる。子どもの学力が低下するのではないかと心配し、統合しなくて良かったのかと思った。Bさん 複式学級について、最初は不安だったが、子どもをとおして見ていると大丈夫なのだと分かり、その良さをみんなに伝えるようになった。5年生までに勉強が終わっていて、6年生になると問題集などをやっている。下級生に教えていたり、リーダーも育っている場面をいっぱい見た。私は複式学級に悲観していない。教師の苦勞は分かるが。

境野さん どの視点で統合を見るかによって異なってくる。複式学級の学校だからといって学力は低下しているというデータはない。小規模学校が多い津南町のように独自に教員を加配している自治体もあった。問題は、小さくとも地域と学校の関係を大切に残すかどうかである。小規模学校でよいところは、これまでの佐渡調査で分かったことでもあるのだが、地域の伝統芸能を子どもの教育に生かし、地域全体で学校を応援している良さが小さい学校にはあるということだ。つまり、顔が分かる関係が維持されていることである。子どもを育てるのはこうした環境が大切だと思う。小さな学校を各地域に残しながら、村全体で教育環境を

創るということでは、宮崎県五ヶ瀬町の例がある。

**Bさん** それならPTA副会長さんも実践している。生まれ育った土地に戻り、子どもたちに剣道を教え、40周年を迎えた。全国で8位にもなり、親子2世代にわたる。本人も元気になり、子どもたちも元気だ。

**Cさん** 当地の民謡研究会は、小学校の総合的学習時間に七浦甚句を子どもたちに指導しており、みんなが学校に集まる夏祭りに披露する。6年生になると、自然と民謡の歌い、三味線を弾き、太鼓を敲くようになる。

**境野さん** 市教育委員会は、佐渡市内の小中学校の子どもたちにDVDを使って、統一した佐渡おけさの歌や踊りをすすめている。先ほどの話にあった、踊りでも「こぶし」が異なり、まえびき（前奏）も地域ごとに少しの違いがあるように、地域の個性を大事にしながら、互いにつながる教育をすすめることが求められるのではないか。

**Aさん** 学校が私を招き、総合的学習時間に陶芸や、山菜採りを子どもたちと一緒にやり、食べられるものと食べられない山菜との見分け方などを教えている。市教委は、学校の子どもの学力や教員対策、ただでなくその視野を広げ、もっと地域に視点を持つて欲しい。

学校と地域との、人と人とのつながりがとても大切だ。

**境野さん** 学校が地域の人を招き入れることはすごいことだ。先生にもできないようなことを地域の大人が沢山持つているからだ。地域に有る文化の経験を伝えることが子どもの学びには欠かせない。太鼓も、踊りも地域には教育の力がある文化が沢山ある。しかも、学校が地域に開いて、地域文化で住民とのコミュニティが出来る場となっている。文科省は来年度から学校と地域住民で教育経営ができるように、コミュニティスクールの割合が全国の学校の1割となることをめざすといっている。この学校は地域と共に学校と教育をつくる仕組みである。こうしたことがしたいという願いに基づいて、〇〇ができる教員が欲しいと、住民が県教育委員会に具申できる制度もある。いろいろと問題点もあるが、学校と地域で一緒に子どもを育むことができるような学校の方向性がしめされている。特に、農山村では面白い仕組みになるかもしれない。

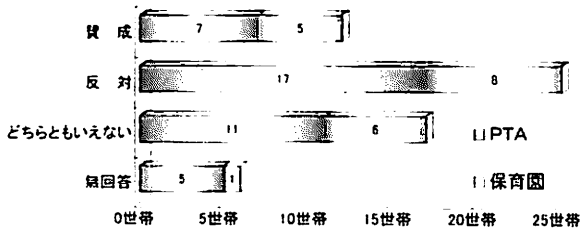
**Bさん** 教育目標に「世界に羽ばたく人材を」などと掲げられるが、羽ばたいても島に戻って来ないから困る。寂れた所には人は帰って来ない。学校が統合せず存続することが、これからの地域づくりの出発点

と  
して  
考  
え  
て  
い  
き  
た  
い。  
境  
野  
さ  
ん  
そ  
の  
通  
り。  
学  
校  
は  
人  
を  
つ  
な  
ぐ  
魔  
法  
の  
よ  
う

な  
力  
が  
あ  
る  
の  
だ  
か  
ら。

(文責・内山雄平)

## 七浦小学校統合に関するアンケート結果

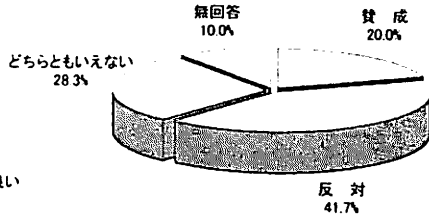


### 賛成の理由

- ・いずれ統合するのなら仕方ない
- ・早く意思表示して良い条件を取り付ける
- ・スクールバス、専用バスの充実が条件
- ・子供にとって大勢の中での教育が良い
- ・相川小連て替えの統合なら仕方ない
- ・中学と一緒にあるので小学校から一緒でも良い
- ・バス通学、通学時間が心配

### 反対の理由

- ・低学年のバス通学の心配・友達関係が心配
- ・建物を廃校にするのはもったいない
- ・統合して良かったという意見を聞いたことがない
- ・児童数が増えたと先生の目が行き届かない
- ・少人数のきめ細かい指導が求められている
- ・地域に根ざした学校配置をおこなうべき
- ・今回および後期統合も含めて反対する
- ・祖父母の目も届くし、子供の行動が判る
- ・現状に支障があるわけではないので時期が早い
- ・いじめの問題がでるのではないかと
- ・歩いて通える学校が良い
- ・母校がなくなるのは寂しい
- ・地域に学校が無くなるのがさみしい
- ・地域の象風が見えないままお金の問題で急ぐ事はない
- ・地域の活力が失われ過疎化が進んでいるので反対
- ・相川小学校の建て替えだけでよい
- ・合併特例債の話より、地域や子供のことが大切
- ・今の環境が親も子供も安心できる
- ・子供が七浦小学校が無くなるのは嫌だという
- ・元々後期統合の話は今持ってくるのはおかしい
- ・地域として統合の気持ちにはなれない
- ・単独のほうが少数でもメリットが多い
- ・市が利便性で押すなら、子供を佐和田に行かせる
- ・時間を掛けて慎重に進めるべき
- ・統合と耐震対策は別の問題
- ・統合に有利な条件などない
- ・七小は地域住民の繋がり、気持ち、情熱の象徴



### どちらともいえない理由

- ・児童数の減少で仕方がない
- ・地域に子供の声がなくなると寂しい
- ・学校が遠くなると行事への参加も少なくなる
- ・条件次第
- ・今の環境が良いので存続してほしい
- ・相川にこだわる必要はない
- ・わりと新しい金泉の校舎を利用する
- ・低学年のバス通学が不安
- ・メリットとデメリットのバランス
- ・反対しても統合が決定しているなら早いほうが良い
- ・相川を金泉と七浦に分ける
- ・徒歩で通える学校が望ましい
- ・人数が減ると行事や学習の対応など不安
- ・児童数が増えるのは競争も増えて良い
- ・少子化のためやむを得ないが不安も多い
- ・今反対している人は、後の当事者にどう説明するのか
- ・説明会に参加できず内容が解らない
- ・跡地をどうするか明確化してほしい
- ・相小老朽化、耐震性の問題は心配
- ・なぜこちら側が急がされなければならないのか疑問

平成21年6月19日～20日  
PTA40歳帯・保育園20歳帯に配布  
小・保の重複なし  
6月29日回収